

その時、パニック状態に陥らないために。

大地震が起こったり、警戒宣言などの地震情報が発表された時、心配されるのがパニックの発生です。私たちは、身体や生命の脅威に遭遇すると、時としてパニック状態に陥ることがあり、それが社会的な大混乱の原因になることもあります。災害発生時にはいつも、間違った情報やデマなど、いろいろな情報がつきまといがち。災害で本当に恐ろしいのは、地震や洪水、火山噴火などによる直接的影響よりも、むしろそうした情報によるパニック状態であるといわれています。万が一、大災害が起こった時、わずかでも私たちの心を落ち着かせてくれるのが正確な情報と知識です。普段から正確な知識を身につけ、いざという時にはデマや不正確な情報に惑わされず正しく判断できるよう心掛けておきましょう。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防御
 備品。設備。備書。備員。備考。备忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク



1990	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
3	•	•	•	•	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。



かわさき NO
 防災広報紙

1990年(平成2年)2月28日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL. (044)200-2111内線2841

67



「自分だけは」という気持ちで、パニックをま召く。

昭和53年6月、東北地方を襲った「宮城県沖地震」は、マグニチュード7.4、仙台市内で震度5と、ほぼ昨年のサンフランシスコで起きたロマプリータ地震と同程度のものだった。

仙台市内のデパートでは、お客が出口に殺到しケガ人が出ました。停電で信号機の止まった道路では、無理な割り込みが続出して大渋滞に陥り、夜まで続きました。地震の恐怖が一段落すると、今度は市民の買占めで、食糧品・ローソク・カセットコンロなどがアツという間になくなってしまう。パニック状態に陥り、自分だけといった生命の脅威に直面した人間の悲しい行動が出てしまったのです。

パニック

流言

昭和53年1月14日に発生した伊豆大島近海地震の4日後、1月18日に静岡県災害対策本部より、その後の余震発生の見通しに関連して「余震情報」(今後マグニチュード6程度の余震が起こるかもしれないという内容)が発表されました。この余震情報は伝達されるうちに歪みが入り、流言化して、一部地域では、「3時間後に、震度6程度の強い地震が起こる」というかたちで伝えられました。人々は、デマだと思いつつも、時がたつにつれ、不安感が高まるばかりでした。結局、3時間後はもとより、その後もこれといった大きな地震はありませんでした。これが「余震情報パニック」事件と呼ばれているものです。



オークランド市の崩壊した高速道路

流言に惑わされ、パニックに陥らないために

正しい情報を得よう

- ① ラジオ・テレビ
サンフランシスコで起きたロマプリータ地震では、地震後、ラジオが市民の情報生命線になりました。川崎市でも、次の4社と災害時における放送協定を締結しています。災害時は、これらの放送で情報を収集して下さい。
・日本放送協会 横浜放送局
・(株)オール・エフ・ラジオ日本

- ・(株)テレビ神奈川
- ・横浜エフエム放送(株)
- ② 広報車・ヘリコプター
毎月15日に、市民地震防災デーの広報をしています。災害時も、市民の皆さんに必要な情報を提供するため、広報車・ヘリコプターを使用し、地域に密着した情報を提供します。

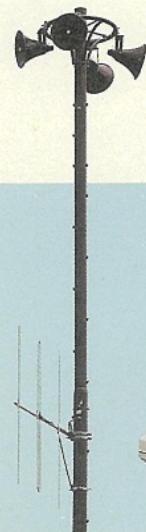


川崎市消防局ヘリコプター「そよかぜ」

ワマプリータ地震に学ぼう

○体験談
サンフランシスコ市警視査談
「心配された略奪やレイプはゼロ。地震によるパニックは何もなく拍子抜けするほどだった」
東京消防庁消防指令長談
「住民は落ちついていて、われ先という行動がないのが印象的だ」
○ワールドシリーズ第3戦の開始を前に、スタジアムは6万人の超満員でしたが、パニックは、起こりませんでした。観客の何人かからスタンドスタイル(じつとして)という声飛び、浮き足立った他の観客に平常心を呼びさましたのです。
○地震後、市民は24時間ラジオに聴き入りました。乾電池がなくなると車のラジオをつけました。エンジンさえかかっていればいつまでも途切れることのない情報は、まっ暗やみの混乱を防いだのです。
○信号の消えた交差点では、車が渋滞しましたが、飛び入りで交通警察を買って出た市民が、交通整理をして混乱を防ぎました。
以上のように前段で述べた宮城県沖地震の時とは、大きな違いがでています。国民性の違いというよりも大きな要因であるかもしれませんが、その一言で済まされるものではありません。おりしも、我が国において、東海地震や南関東地域における地震が心配される中、太平洋をはさんだロマプリータ地震は、「日本は大丈夫か」と問いかけていようような気がします。

今年から、国際連合による「国際防災の10年」が始まります。国際連合は、1990年代を通して、世界各国が、自然災害による人命や財産などの被害を軽減するために、協同して取り組んでいこうと決めました。
近年、バングラディッシュ、アルメニア、サンフランシスコなど世界各地で大きな災害が発生しており、日本でも、毎年、自然災害により、多くの被害が生じています。特に、開発途上国においては、多数の人命が失われ、自然災害の影響は深刻なものがあります。防災分野の先進国である日本としては、このような問題の解決に向けて積極的貢献するよう、国際協力、国際交流を進めて行かなければなりません。
川崎市においても、市民の皆さんの幅広い理解と協力を得て、この「国際防災の10年」を果敢に実現するよう今後とも防災に対する努力をしていきます。



戸別受信機

8 こちらお天気情報室

ボタン雪

ボタン雪は、温度が高くて空気が湿った空ででき、春先にかけて多く降ります。この結晶は、大きくて水分をたっぷりふくんでいるのが特徴です。ときには、落ちてくる途中でくつき、1片の大きさが10センチにもなることがあります。また、水分は、結晶どうしをつける作用をするため、ふんわりとした大きな結晶のかたまりとなります。ちなみに、昔の人は、雪を花びらにたとえて「雪華(せっか)」と呼んでいました。ふつとした感じの大きな雪片になって降るボタン雪も、牡丹(ぼたん)の花にたとえられて名づけられたものです。